

透析膜面積拡大は透析時間不足をどこまで代償できるか？ - β 2MG に関する考察

医療法人衆和会 長崎腎病院

○佐藤泰崇, 矢野利幸, 高木伴幸, 原田孝司, 船越 哲

【目的】

当院における β 2MG 高値患者に対し、透析膜面積拡大の効果を検討する。

【方法】

2011年1月～12月まで、当院の β 2MG が 35 以上の外来透析患者のうち、癌や慢性炎症がなく適切な IC を得られた者 9 名を対象とした。まず対象患者を RENAK PS-1.6 に統一し 3 ヶ月観察、その後 RENAK PS-2.3 に変更し 3 ヶ月後に血中 β 2MG 等の推移をみた。血流量や透析時間などの条件は一定とした。

【結果】

対象の平均 β 2MG 値は 38.9 ± 5.9 、平均 KT/V は 1.41 であった。透析膜面積拡大後の平均 KT/V は、1.52 と有意に上昇した。 β 2MG については、平均値は 33.5 ± 4.4 低下する傾向にあったが、有意差はなかった。しかし、9 例中 4 例が β 2MG 値 40.1 ± 7.2 から 34.3 ± 7.0 に低下し、3 例が不変であり、2 例は 37.1 ± 7.0 から 40.3 ± 4.9 に上昇した。

【考察】

β 2MG 値を規定する因子は多様であり、アミロイドーシスの発症との関係も定説がないが、中分子除去の指標として β 2MG 値低下を目指す意味はある。今回の検討により治療抵抗性の β 2MG 高値患者に対して試用する価値があると思われた。